

<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なことについて、特徴を比較しながら説明することができる。【知・技】</li> <li>・身近なトピックを通して、調査や発表の効果的なやり方について考える。【思考力・判断力・表現力】</li> </ul>
<p>○日本語支援 ●多文化共生の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比較表現について理解を促すため、生徒の興味関心のある話題を提供したり、電子黒板やパワーポイントを活用して図や写真などで分かりやすく説明したりする。</li> <li>○『「as-as」大賞を考える』という活動を通して、日本語での比較表現と英語での比較表現の違いに気付くと共に、表現することの楽しさに気付くことができるようにする。</li> <li>●多文化共生の中で生きる力として、主に、創造力の育成を図る。そのために、新文型の反復練習や作文などを行い、授業の中で学習した文法を用いて、自分が表現したいことを表現できるようにする。</li> <li>●発表文を作成していく中で、日本のことや中国のことを題材として生徒が選ぶことで、日本理解や他国理解が進むようにする。</li> </ul>

単元の指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準
1,2,3	比較表現 (…er, the …est)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較表現 (…er, the …est) を用いた文の形・意味・用法を理解し、複数のものを比べて説明する技能を身につけている。【知・技】</li> <li>・複数のものを比べた結果を理解するために、事実などを整理し、情報を捉えている。【思・判・表】</li> </ul>
4,5	比較表現 (more …, the most …)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較表現 (more …, the most …) を用いた文の形・意味・用法を理解し、複数のものを比べて説明する技能を身につけている。【知・技】</li> <li>・複数のものを比べた結果を理解したり伝えたりするために、自分の気持ちなどを整理し、情報を捉えたり伝え合ったりしている。【思・判・表】</li> </ul>
6,7	比較表現 (better, best)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較表現 (better, best) を用いた文の形・意味・用法を理解し、好きなものについて、複数のものを比べた結果を理解したり、伝え合ったりする技能を身につけている。【知・技】</li> <li>・調査の結果について理解したり伝え合ったりするために、複数のものを比べた文章の概要を捉えたり、簡単な語句や文を用いて説明したりしている。【思・判・表】</li> </ul>
8(本時),9	比較表現 (as … as ~)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較表現 (as … as ~) を用いた文の形・意味・用法を理解し、2つのものを比べて、程度が同じくらいであることを説明する技能を身につけている。【知・技】</li> <li>・身近なトピックを通して、調査や発表の効果的なやり方について考えるために、発表の内容について評価する文章の概要を捉えている。【思・判・表】</li> </ul>

本時の学習

(1)ねらい

身近なトピックを通して、物事を比較する様々な表現方法を理解し、程度が同じくらいのことを説明することができる。

(2)準備

(教師) ワークシート、電子黒板 (PowerPoint、Word)

(生徒) iPad (ロイロノート) 教科書

## (3)展開

## ☆多文化共生社会の中で生きる力の育成

学習活動と内容	指導上の留意点	評価規準(方法)
<p>1 歌を歌う。 3分</p> <p>2 本時の新文型を学習する。</p> <p>(1)基本文を学習する。</p> <p>i) 基本文を聞く。 5分</p> <p>ii) 基本文を理解する。 10分</p> <p>iii) 新文型を練習する。 5分</p>	<p>○歌を歌うことで英語学習の雰囲気を作る。</p> <p>○絵や図を見ながら、説明を繰り返すことで、既習文型との違いを理解しやすくする。</p> <p>☆いくつかの例文を示し、比較することで、文化によって違った価値観で比較されていることに気付くことができるようにする。(批判的思考力)</p> <p>○ワークシートで簡単に確認することで、文法構造を簡潔に理解できるようにする。</p> <p>○英文を正しく理解できるように繰り返し発音し、確認できるようにする。</p>	<p>・複数のものを比べた文の特徴を比較しながら、違いを理解しようとしている。(観察)【主】</p>
<p>(2)新文型の反復練習をする。 5分</p>	<p>○英文を繰り返し書いたり、作文し発音したりすることで、新文型を正しく理解できるようにする。</p> <p>○何度も練習することで文法の定着を図る。</p>	<p>・新文型を正しく理解し、書くことができる。(観察、ワークシート)【知・技】</p>
<p>(3)新文型を使って「as-as 大賞」を決める。</p> <p>i) 新文型を使って文を作る。 10分</p> <p>ii) 作った文を紹介する。 5分</p> <p>iii)「as-as」大賞を選ぶ。(理由や感想を既習文型を用いて書く。)5分</p>	<p>○身近なところで考えられる同じくらいのを考えられるように、例文を示す。</p> <p>○できるだけインターネットの情報に頼らないようにヒントを出して、英作文を考えられるように支援する。</p> <p>☆机間指導を行い、自分が表現したいことを新文型を用いて書くことができるよう、個別に声を掛ける。</p> <p>○他の生徒の作文の中で、良かったと思った作文に順番をつける上で、既習文型を使って理由や感想が書けるように、事前に例示しておく。</p> <p>☆順位付けは、個人の感覚で行われるため、様々な意見や感想を出し合い、違う意見を認め合えるようにする。(寛容性の育成)</p>	<p>・既習文型を正しく理解し、自分の考えを多様に表現することができる。(机間指導、ワークシート、発表)【思・判・表】</p>
<p>3 次時の予告を聞く。 2分</p>	<p>○次時の内容を伝え、復習の確認をする。</p>	

## 考察

## (成果)

既習文型を確認しながら、新文型の導入をスムーズに行うことができた。身近な題材や、生徒の興味関心のある話題を提供したり、デジタル黒板やパワーポイントで図や写真を用いて分かりやすく説明したりして、意欲的に取り組むことができていたように思う。多文化共生の視点からは、他国の情報を取り入れることができ、考えを深めることができた。

## (課題)

多文化共生の視点で他国の情報や自分の知っている情報をもとに発表をし、共有していく予定だったが、情報収集や例題の選別、文の作成に時間がかかり、発表までに至らなかった。次時の授業での発表になったが、多文化的な視点のある発表は弱かったように思う。もっと多文化的な視点のインプットが必要だと感じた。また、新文型が既習文型を学んだ後のため、理解が容易ではあったが、反復練習を飽きさせることなく、十分な量で行う必要があったように思う。授業の中での定着を図りたい。

